

本日の為替見通し

ポイント

ユンケル・ユーログループ議長は、ユーロ圏財務相会合を、本日9日にブリッセルで午後6時(日本時間10日午前2時)に召集、ラガルドIMF専務理事も出席する。

ようやくこれで、ギリシャ債務交換協議と第2次支援へ向けた最終協議が開催されることになるが、どのような結論がでるであろうか? 何れにしても選択肢「B」と呼ばれている、ギリシャのデフォルトやユーロ圏から離脱するリスクは大幅に薄らいでいることは間違いないと思われる。懸念材料は、現時点でギリシャ国内連立与党との党首会談では、年金引き下げ問題で合意に至っていない。

ギリシャ政府と民間債券者の代表とでは、総額2060億ユーロ相当を額面50%の債務減免で合意。50%の保証分の内、15%は現金で、残り35%は新発債で交換し、表面利率は平均で3.6%~3.75%になると報道されている。

そして、ドイツ議員は、1300億ユーロ救済パッケージと、ECB保有するギリシャ債務交換後に、民間債権者が持つ新発ギリシャ債の一部に補償を付ける権利をEFSFに与えることを議会で採決するとも言われている。いずれにしても、ドイツは議会採決なしでは動けない。

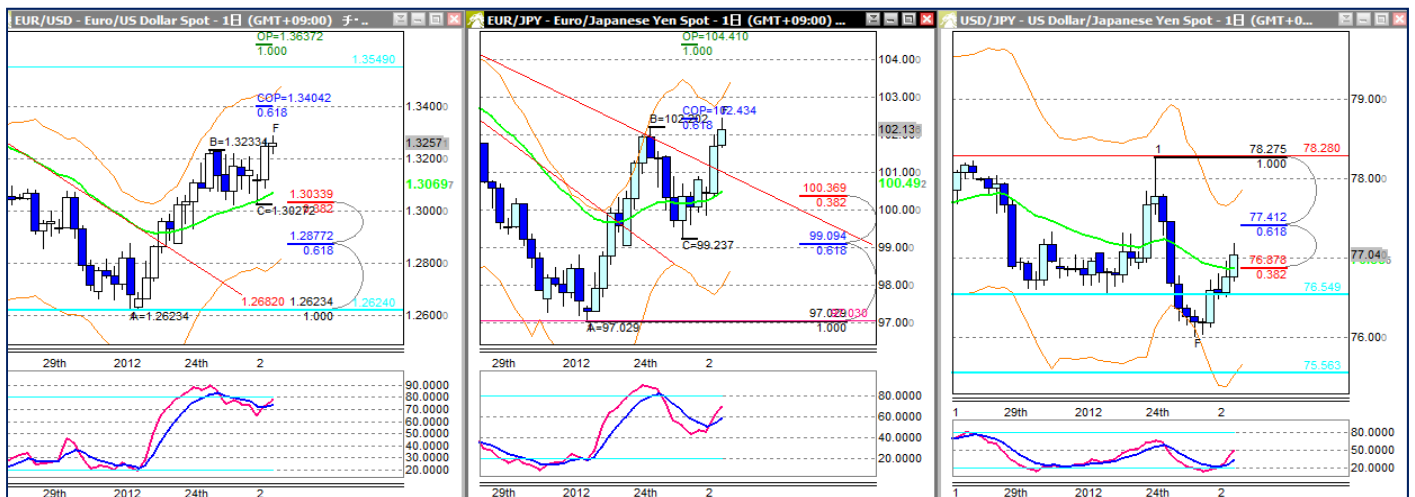
本日、2月9日(木曜)は市場参加者にとって、忙しい一日になりそうで、予想外となったRBA(豪中銀)政策金利の据え置きではないが、市場の予想が裏切られる結果になるリスクも、いつも考え置く必要がある。

午後9時には、イングランド銀行(BOE)の金融政策委員会があり、政策金利0.5%の据え置きと、資産買入枠500億ポンドの増額が予想されている。午後9時45分には、欧州中銀(ECB)は理事会があり、政策金利1.0%の据え置くことが予想され、午後10時30分のドラギECB総裁の記者会見では、ギリシャ債務再編に向けたECBの関与につき、どのような説明をするのであろうか?

S&Pは、日本に財政の悪化を警鐘し、フランス・イタリアには信用状況の悪化を警鐘し、アメリカにはさらなる格下げのリスクを警鐘し、確立は1/3で、大統領選まではないとしている。イタリアの第4四半期GDPがマイナス成長との報道もあり、引き続き相場への影響を与える材料が控えている。

引き続き、コモンウェルス通貨の上昇が続き、USDCADは下落、AUDUSD+NZDUSDは上昇し、それぞれ前回の重要ポイントを目指しているが、仮にこの流れが続いたとしても、2月28日に予定している、ECBのLTROが一つの転機になるように思えてならない。

マーケット・レベル



EURUSD(日足) = 25日指数移動平均線は1.3070、この線を下限に上場トレンドが続いている。DOPup=1.3443、DOPdn=1.2787。スロー・ストキャスティックは%K=78.04、%D=74.54、売りから買い変化し、ベースは買われ過ぎゾーンに近い。

EURJPY(日足) = 25日指数移行平均線は102.96、この線を下限に上昇してし、下降トレンドラインの上値を超えている。DOPup=102.96、DOPdn=97.95。スロー・ストキャスティックは%K=69.77、%D=58.93、買いへ変化し、ベースはニュートラルゾーンに近い。

USDJPY(日足) = 25日指数移動平均線は76.89、終値ベースではこの線を上抜けし買いの流れに入っている。DOPup=77.73、DOPdn=75.53。スロー・ストキャスティックは%K=50.73、%D=34.04で、買いに変化し、ベースは売られ過ぎゾーン。

本日のCFD見直し

ポイント

ようやく終点が見えてきているギリシャ債務交換協議と第2次支援策の実施は、現地時間の今日開催されるユーロ圏財務相会合で決着がつくと思われる。さらに、今日は、ECB 理事会と、BOE 金融政策委員会があり、ドラギ ECB 総裁の記者会見と、重要なイベントが続き、それを見極めるまでは大きな相場変動も予測しにくい。

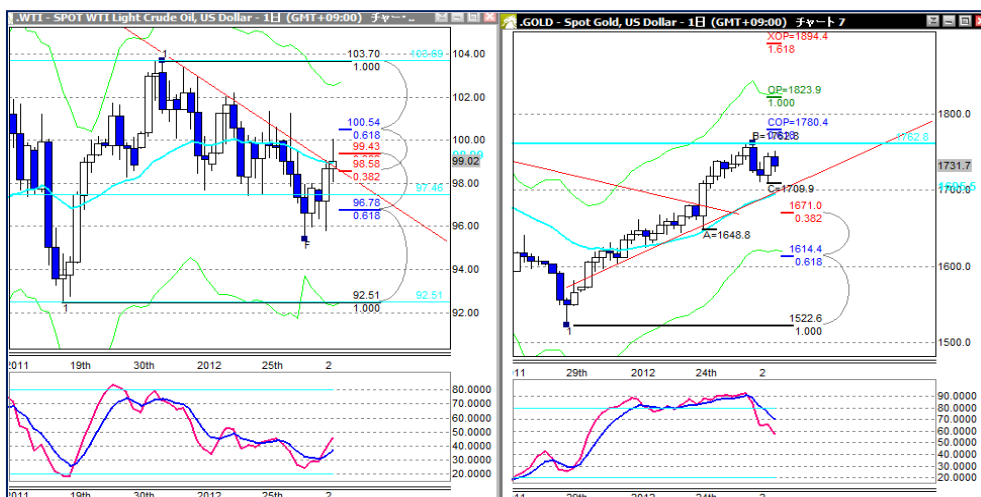
◎Spot.WTI(Light Crude Oil)

EMAは98.99で、昨日は一時100の大台を達成したが終値では、この水準を若干越えた水準にとどまっている。ストキャスティクスは買いサインに変わり、下降トレンドとEMAと終値がほぼ同一水準で、今日の動きが重要となっている。上値のポイントは100.54、103.70、下値のポイントは98.58、96.8。

◎Spot.Gold

EMAは1695.49で、引き続きこの水準を下限に上昇トレンドが続いている。ストキャスティクスは売りへ変化しており、売り買いが交錯する可能性があるが、上昇トレンドの1700近辺は、EMAの1695.49を終値ベースで割り込むまでは、この流れは変わりそうにない。上値のポイントは1780.4、1823.9、下値のポイントは1671.0、1614.4。

マーケット・レベル



Spot.WTI(Light Crude Oil) (.WTI 日足) = 25 日指数移動平均線は 98.99、終値ベースでこの線を上限近くで上げ度まっている。DOPup=102.55、DOPdn=92.34。スロー・ストキャスティックは%K=46.00、%D=37.41で、買いへ変化し、ベースは売られ過ぎゾーン。Spot.Gold(.GOLD 日足) = 25 日指数移行平均線は、1695.49、この線を下限に上昇している。DOPup=1828.11、DOPdn=1621.02。スロー・ストキャスティックは%K=57.67、%D=69.85で、売りへ変化し、ベースは買われ過ぎゾーンに近い。

2月9日(木曜日) 注目の経済指標 その他

発言・その他

22:30 ドラギ ECB 総裁、理事会後の会見

03:00 アメリカ 30 年債入札

欧州銀行監督機構(EBA)が資本増強計画を検証(最終日)

注目の経済指標

21:00 英中銀(BOE)政策金利発表

21:45 欧州中銀(ECB)政策金利発表

22:30 米週間 新規失業保険申請件数

2月9日(木曜) 本日の主な経済指標と発表予定

6:45	NZD(発表済み) 第4四半期 失業率=前期比 6.3%(予想 6.5% 前回 6.6%)、就業者増減数=前期比 0.1%(予想 0.4% 前回 0.2%)、前年比 1.6%(予想 1.9% 前回 1.1%)、労働参加率=前期比 68.2%(予想 68.5% 前回 68.4%)
8:50	JPY 12月 機械受注=前月比予想-5.0% 前回 14.8%、前年比予想 8.5% 前回 12.5%
10:30	CHN 1月 生産者物価指数=前年比予想 0.6% 前回 1.7%、消費者物価指数=前年比予想 4.1% 前回 4.1%
18:30	GBP 12月 鉱工業生産=前月比予想 0.2% 前回-0.7%、前年比予想-3.1% 前回-3.1%
18:30	GBP 12月 製造業生産高=前月比予想 0.4% 前回-0.2%、前年比予想 0.5% 前回-0.6%
18:30	GBP 12月 商品貿易収支=前月比予想-87億ポンド 前回-86.44億ポンド、EU以=予想-50億ポンド 前回-50.21億ポンド、貿易収支=予想-25億ポンド 前回-25.66億ポンド
21:00	GBP 英中銀(BOE)政策金利発表=0.50%の政策金利の据え置きを予想、資産買入額=現行 2750億ポンドから 3250億ポンドへの増額を予想
21:45	EUR 欧州中銀(ECB)政策金利発表=1.0%の政策金利の据え置きを予想
22:30	CAD 12月 新築住宅価格指数=前月比予想 0.2% 前回 0.3%、前年比予想 2.5% 前回 2.5%
22:30	USD 週間 新規失業保険申請件数=予想 35万人 前回 36.7万人
0:00	USD 12月 卸売在庫=前月比予想 0.5% 前回 0.1%

昨日(2月8日)の海外市場の動き

ギリシャ債務交換協議と第2次支援の行方が焦点で、ようやく、9日にユーロ圏財務相会合は開催にこぎつけた。その過程で数多くの発言や決定の報道に相場が上下、開催発表にも EURUSD の上昇も限定的。EURGBP は大口の売りに EURUSD の買い要因の一つにもなり GBPUSD は弱く GBPJPY も伸びがなかった。USDJPY は日本の経常収支・貿易収支の発表で円売りが進んだが、安住財務相の発言で円の買い戻しも見られた。

- ◎日本の経常収支は予想を下回り、貿易収支の赤字額は拡大→ USDJPY 上昇へ、クロスで円売りが強まる
- ◎カナダ住宅着工は予想を上回る→ USDCAD の売りも限定的
- ◎イタリア経済が第4四半期にマイナス成長の可能性→ EUR 売りの流れへ変化
- ◎安住財務相は、更なる量的緩和は通貨の信用問題になり、緩和しないと厳しいところもある→ USDJPY は下落へ、

- ◎ECB は一部のギリシャ国債の交換に同意
- ◎トロイカは救済でギリシャ政府と合意したい、迅速に債務交換ができるように準備
- ◎ギリシャ連立与党の党首は、トロイカの文章の草稿を受け取っている
- ◎パパデモスギリシャ首相は債務交換で民間債権者の代表団と合意→ EUR の買いが強まる
- ◎ドイツ議会はギリシャ関連法案の採決を検討
- ◎ECB 内でギリシャ債務再編の負担で合意できず
- ◎パパデモス・ギリシャ首相と連立 3 与党の党首会談で財政緊縮債の受け入れについて協議を開始、
- ◎ユーロ圏財務相会合は 9 日に開催→ ギリシャ債務交換協議と第 2 次支援の実施の可能性が高まる

USDJPY アジア市場は、開始直後の 76.75 を安値に経常収支は予想を下回り、貿易収支の赤字額は拡大に、77.00 近くまで上昇、本邦勢の売りに抑えられながらも、クロスで円売りが強く、77.15 まで続伸した。欧州市場に入ってもクロスで円売りが続き、一時 77.18 まで上昇したが、後が続かず、大枠 77.00~10 のレンジで取引が続いた。ギリシャ債務交換協議や第 2 次支援で最終合意が近づきある中で、クロスのパシフィックポジションの巻き戻しに上値が重くなり、安住財務相の「更なる量的緩和は通貨の信用問題」との発言も引き金となり、ストップロス巻き込み 76.70 近くまで下落した。米国市場は、ギリシャに関心が集中する中で、実需筋の買いやクロスで円売りが再開され、77.00 台まで値を戻している。

EURUSD アジア市場は、期待されたギリシャ債務交換協議と第 2 次支援の合意もなく、大枠 1.3240~65 でギリシャ政府とトロイカの協議を見守っていたが、中東・東欧勢の買いに 1.3280 台へ上昇。欧州市場に入り、ギリシャ紙が債務交換で民間代表者の代表団と合意との報道や、トロイカ代表はギリシャ当局に不満との報道や、ECB はギリシャ国債の交換で同意との報道など、多く強弱の材料に大枠 1.3250~85 のレンジで売り買いが交錯した。米国市場に入っても、EURGBP の買いが続き、ギリシャ関連の報道に上下、イタリア経済が第 4 四半期にマイナス成長の可能性との報道や米国株が弱く、ギリシャ連立 3 党の党首会談の開始との報道にもかかわらず、1.3220 台まで下落、ユーロ圏財務相会合の 9 日開催決定に、1.3270 台を回復、結局は 1.3260 を中心に上下を繰り返していた。

AUDUSD アジア市場は、開始直後の高値 1.0807 から 1.0780 まで緩やかに下落、大枠 1.0780~95 のレンジから、中東・東欧勢の買いに 1.0830 台まで上昇した。欧州市場は、ギリシャ債務交換協議と第 2 次支援をめぐる発言に一喜一憂しながらも、合意が直前に迫っているとの思惑に、1.0840 台まで上昇したが、1.0850 の売りを意識し 1.0815 台まで下落、大枠 1.0815~40 のレンジで取引が続いた。米国市場は、一時 1.0840 台まで再トライしたが失敗、1.0810 台まで値を下げ、イタリア経済が第 4 四半期にマイナス成長の可能性との報道や、米国株が弱く、1.0800 を割り込むとストップロスの売りに 1.0760 台まで大きく値を下げ、1.0800 近くを戻り高値に売りの流れが続いている。

金・原油価格

- ◎イラン国営TV、イランはイランの航空部隊は外国の軍事行動を警戒しているが、先制攻撃は計画していない。脅威には反撃する準備が整っている
- ◎米エネルギー省(EIA)週間在庫統計、原油在庫+30.4万バレル、ガソリン在庫+163万バレル、精製品+117万バレル、製油所稼働率82.8%(+1.0%)→米原油在庫は小幅上昇にとどまり買いも限定的
- ◎9日にユーロ圏財務相会議の開催の決定で、底値から値を戻している。

◎Spot.WTI(Light Crude Oil)

アジア市場は、朝方の 98.60 を安値に、99.20 まで上昇した。欧州市場は、99.00 を底固めして、堅調な欧州株と、リスクアセットが強く 99.60 まで上昇、利食いの売りに上値は重くなり、99.20 割れまで値を下げたが底堅く、99.60 台まで再び上昇した。米国市場では、ギリシャ債務交換協議や第2次支援の合意期待が強く、ついに 100 の大台を超え 100.05 近くまで上昇し、米エネルギー省(EIA)週間在庫統計は若干の増加となったが買いの限定的。米国株は弱ドル高の影響もあり売りの流れへ変化し、98.20 割れまで急落、99.00 近くを戻り高値に再び 98.20 台を割り込んだが、ユーロ圏財務相会合の開催も正式にきまり、終盤にかけ 99.00 を超えている。

◎Spot.Gold

アジア市場は、開始直後の 1742 台を安値に 1.749 台まで上昇→1.0745 台まで下落→1751 台まで上昇、徐々に底値を切り上げ上昇が続いた。欧州市場は、堅調な欧州株と、ギリシャ債務交換協議と第2次支援の合意期待に一時 1752 近くまで上昇したが、1742 近くまで下落、大枠 1742~48 のレンジで取引が続いた。米国市場に入っても、1740~48 のレンジで取引が続いていたが、米株安とドル高の流れに 1730 割れまで下落、1735 近くを戻り高値に、1725 近くまで値を下げたが、ユーロ圏財務相会合の開催も正式にきまり、終盤にかけては 1734 近くまで値を戻している。

昨日(2月8日)の主な発言・出来事

欧州関連
ドイツ・ヴェルト紙=◎キール世界経済研究所(IFW)を引用し、ドイツの納税者はギリシャ国債で少なくとも250億ユーロの損失する可能性がある
中国青華大学の袁鋼明教授=◎中国は近く欧州支援に動く可能性 ◎中国の投資は1000億ユーロにたっし、EFSFに数百億ユーロを投資する可能性
ドイツ5年債入札の需要は鈍化=◎32.93億ユーロ落札、応札倍率1.8倍(1月11日2.8倍)に低下、平均利回り0.91%(前回0.9%)
バルエニ欧州委員会委員=金融取引税は現在9カ国が支持を表明しているが、EU加盟27カ国全域の支持が必要
S&P=◎イタリアとフランスの信用状況は引き続き悪化 ◎ギリシャは債務交換完了後に選択的デフォルトから格上げするだろう
イタリア政府(ロイター)=イタリア経済が第4四半期にマイナス成長の可能性

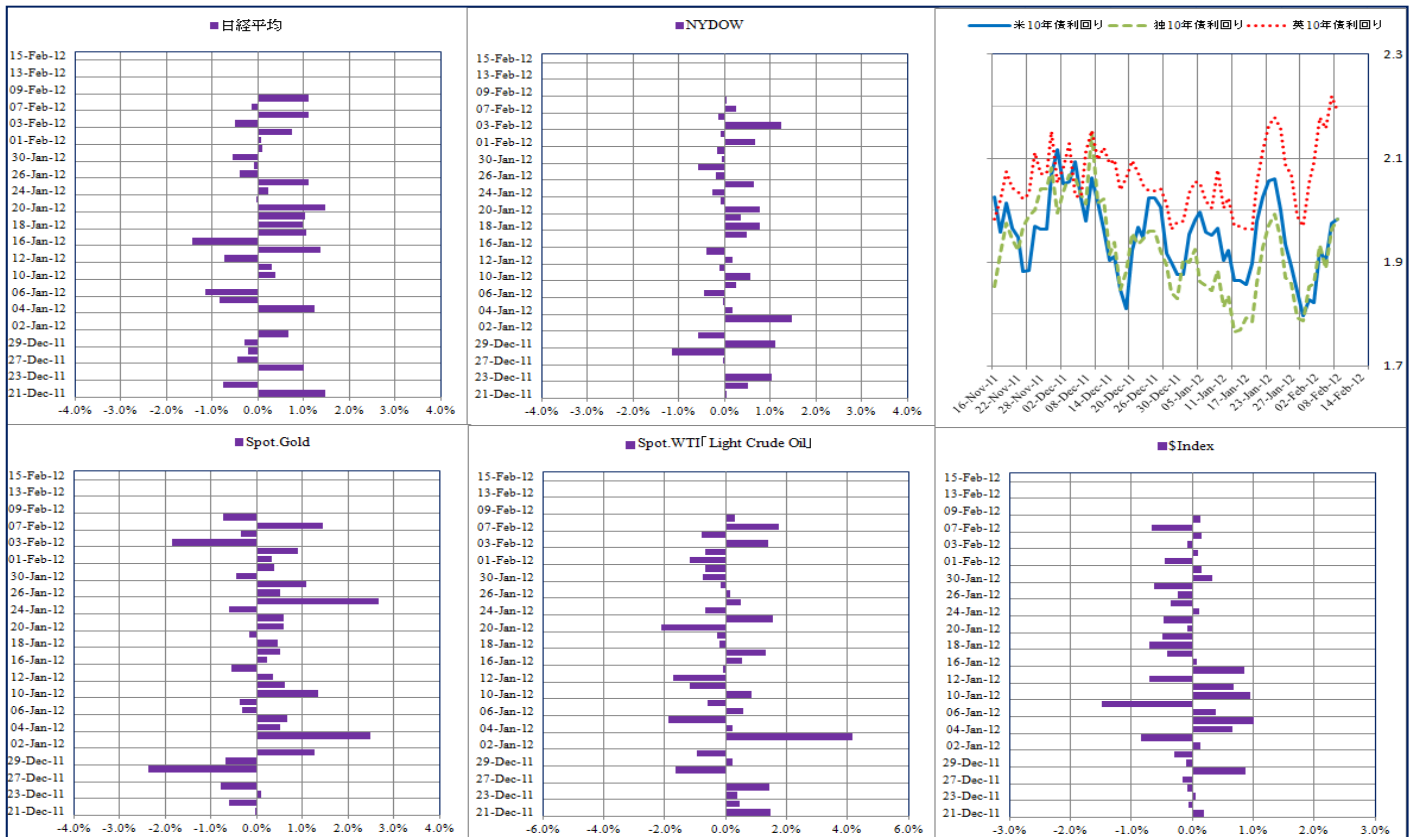
ギリシャ関連
ドイツ・ビルト紙=◎トロイカ代表が9日に公表する予定の報告書の草案で、ギリシャ当局は先に承認された改革措置をほとんど実行できないでいる
WSJ オンライン版=◎ECBは昨年に流通市場で額面を下回る価格で購入したギリシャ国債の交換に同意した ◎ギリシャ債務再編構想の成功が前提となる
関係者=◎ギリシャの民間債権者は9日にパリで会合を計画 ◎債務交換はEUとIMFから第2次救済と合わせての実施が前提 ◎トロイカが救済でギリシャ政府と合意しだい、迅速に債務交換ができるように準備する
トロイカ当局者(国営NETテレビ)=◎ギリシャとの協議で、各政党首と個別に会談を求めた ◎パパンドレウ全ギリシャ社会主義運動(PASOK)党首は、1300億ユーロの救済に必要な措置をまとめたトロイカの文章の草稿を受け取っている→この報道とは別に、サマラス新任民主主義党(ND)党首も受け取っていると党の報道官が発言
パパデモス・ギリシャ首相は債務交換で民間債権者の代表団と合意(ギリシャ・ナフトエンポリキ紙)=◎自発的に参加しない債権者に構成的に交換に応じさせる集団行動条項も協議された ◎総額2060億ユーロに相当する額面で50%の債務減免で合意 ◎債券保有者は額面の15%相当の現金を受け取り、35%については新発債に交換する ◎新発債の表面利率は平均で3.6%~3.75%
マイスター独議員=◎ドイツ連邦議会(下院)はギリシャ救済パッケージで最大3本の議案を決議する可能性がある→アテネで交渉中の成功を見込み準備していることを示唆 ◎ドイツ議会は1300億ユーロの救済パッケージと、ECB保有のギリシャさいとの債務交換後に民間債権者が持つ新発ギリシャの一部に補償を付ける権限をEFSFに与えることも採決する可能性
ギリシャ連立与党党首会談始まる=◎パパデモス・ギリシャ首相と連立3与党の党首会談は財政緊縮債の受け入れについて協議を開始
ユンケル・ユーログループ議長=◎ユーロ圏財務相会合を9日午後6時に開始する(日本時間10日午前2時)
ラガルドIMF専務理事=9日のユーロ圏財務相会合に出席
シュテフェン独財務次官=◎来週にギリシャの民間債権者へ債務スワップの正式提案を行うことを目指している

JPY	日本の2011年通年の経常収支は前年比-43.9%の9.6289兆円=比較可能な1985年以降で過去最大の減少率で、経常収支は15年ぶりに10兆円を下回る
JPY	S&P=◎日本の財政悪化は改善されてい ◎インドと日本は引き続き政策まひの恐れ
CHN	中国人民銀行=◎中心レートを1ドル=63027元(前日比+0.14%)に設定、引き上げ幅は2011年12月30日以来→周近平国家副主席の訪米前の措置か?
AUD	リドアルト豪中銀新理事就任予定者=◎豪ドルの過大評価は正に取り組む ◎利下げ方向へ一票を投じるかもしれない ◎AUDUSDはファンダメンタルズでは0.9~0.95が適切水準
USD	ウィリアムズ SF 連銀総裁=◎景気の失速や、インフレ率が2%を大きく下回れば、追加のMBS購入プログラムが最善の方法 ◎失業率8.3%は明らかに最大雇用からほど遠い ◎インフレ率は目標の2%を下回る見込み ◎失業率は13年かけ8%超の水準へ
USD	S&P=◎米国は政府が予算に合意できなければ更なる格下げもあり得る
JPY	安住財務相=◎単独介入は効果があった ◎更なる量的緩和は通貨の信用問題になり、緩和しないと厳しいところもある

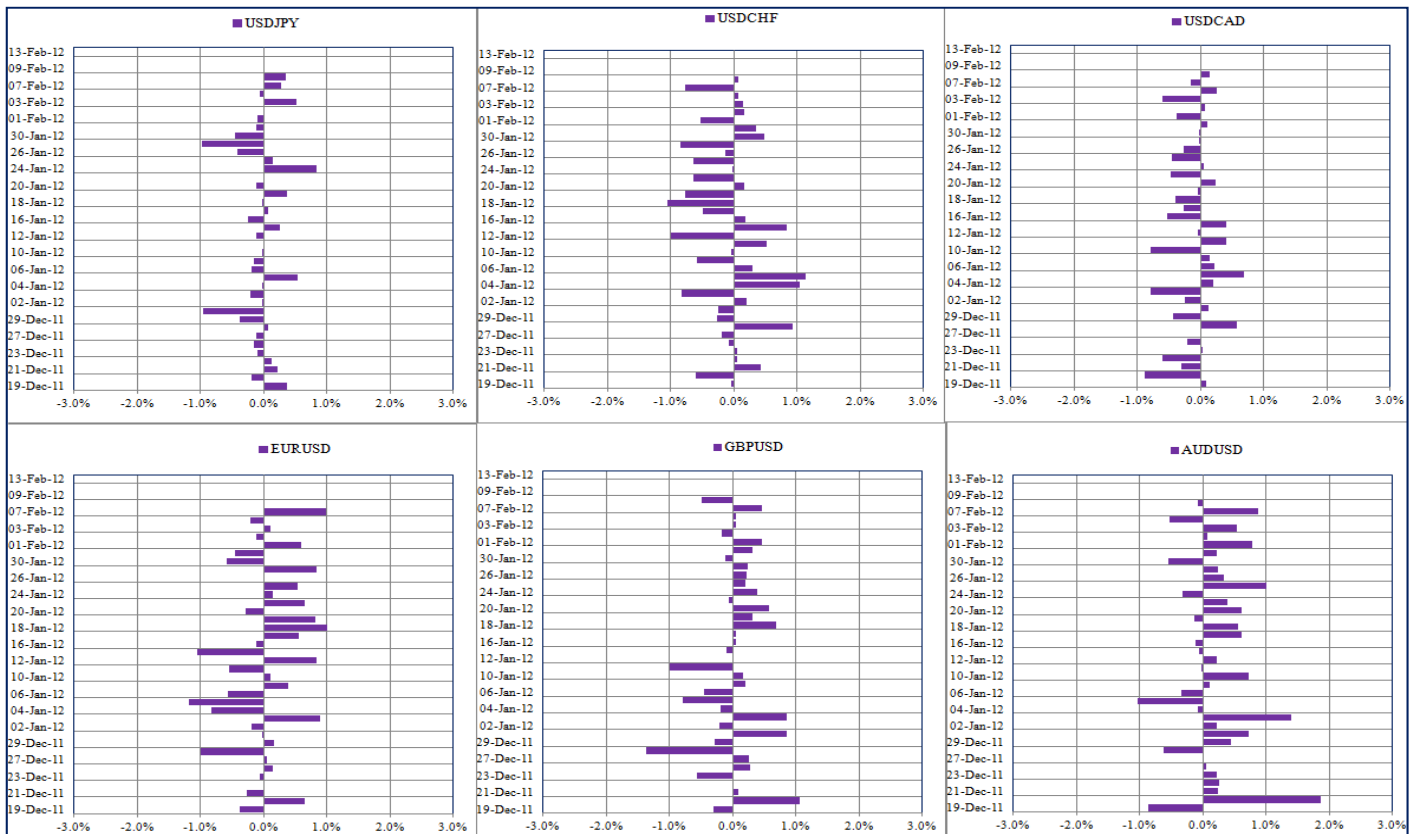
昨日(2月8日)の経済指標と結果

8:50	JPY 12月 国債収支:経常収支=30350億円(予想3401億円 前回1385億円)、貿易収支=-1458億円(予想-1350億円 前回-5851億円)
9:01	GBP 1月 BRC店頭価格指数=前年比1.4%(予想 前回1.7%)
14:00	JPY 1月 景気ウ ッチャー調査:現状判断=44.1(予想47.4 前回47.0)、先行き判断=47.1(予想45.5 前回44.4)
15:45	CHF 1月 失業率=3.4%(予想3.5% 前回3.3%)
16:00	GER 12月 経常収支=193億ユーロ(予想152億ユーロ 前回147←143億ユーロ)、貿易収支=129億ユーロ(予想144億ユーロ 前回159←162億ユーロ)
22:15	CAD 1月 住宅着工件数=前月比19.79万件(予想19.15万件 前回19.99←20.02万件)

日経平均株価・NYダウ平均株価・SpotGold・SpotWTI・\$Index の(Daily 変動率)、10年債利回りの Daily 推移と比較



主要通貨の Daily 変動率 (%)



円クロスの Daily 変動率(変動率)



USD=米国、JPY=日本、GER=独、GBP=英国、CAD=カナダ、AUD=豪州、NZD=ニュージーランド、
CHF=スイス、NOK=ノルウェー、SEK=スウェーデン、CHN=中国、FFR=フランス

本レポートで言及している市場予想の出所=fx360.com,ロイター社。各国経済指標・日時の出所=fx360.com ロイター社

外国為替保証金取引 (FX) 及び CFD には、高いレベルのリスクが潜在しており、全てのお客様に適した投資商品とは言えません。高いレベルのレバレッジは、利益ももたらしますが、損失ももたらします。預託した資金を超えて損失を被る可能性もあるため、損失に耐えられない金額を投資するべきではありません。過去のパフォーマンスが、必ずしも将来の結果を示唆しているわけではありません。

本レポートの内容は

- 情報提供の目的にのみ供されるものとし、いかなる投資商品の提供・勧誘その他法的に拘束され得る行為、また、それら投資商品の推奨、助言等を意図したものではありません。
- マーケットに関する意見・予想はその正確性や完全性についてそれらを保証するものではありません。
- レポート著者の予想・意見は必ずしも、弊社及び弊社関係者の見方を反映したものではありません。
- 筆者によって提供される市場に関する如何なる予測や見解についても、その正確性が検証されている訳ではありません。
- 当社は本レポートの内容に依拠してお客さまが取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。

GFT はお客様への一般的な情報として本資料を提供していますので、投資判断を行う際の詳細な独自調査に代えて本資料に依拠することはお控えください。

GFT は、本資料に含まれる情報に基づいた投資の結果として発生した損害に対して、如何なる責任も負いません。また、投資、法律、会計、税務、またはその他の専門的助言についても、一切提供することはありません。これらの専門的助言が必要な場合は、専門家にご相談ください。

同支店は、日本においては、グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッドとして第一種金融商品取引業者登録(関東財務局長(金商)第268号)および商品先物取引業者許可を取得しており、社団法人金融先物取引業協会および日本商品先物取引協会の加盟業者です。www.gftforex.co.jp

© 2011 グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッド 著作権/著作権所有。無断複写・複製・転載を禁ず。

CD08J.005.113011